

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和5年度第7回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和5年11月14日(火) 午前9時00分 ~ 午前9時58分
開催方法	公室
出席者氏名	市長 菅原文仁 副市長 秋田大輔 委員長 佐藤徹 副委員長 長野基 委員 興松敬史 委員 石田真由美 委員 宮崎仁美 委員 芳賀良 委員 長谷川孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	企画財政部 吉野部長 清水次長 共創企画課 山本課長 石嶋主幹 北田副主幹 野本主任 薄葉主事
議 題	答申及び意見交換
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	・次第 ・答申書及び別紙

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
市長	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>戸田市外部評価委員会から市長への答申及び意見交換について (市長から以下のとおり挨拶を行った後、各委員から報告が行われた。)</p> <p>昨年度に引き続き、任期2年目となる今年度についても、外部評価委員会として評価をいただき、佐藤委員長をはじめ、委員皆様に感謝申し上げます。</p> <p>健康、教育、危機管理・防災、公園分野などは、部局横断的な取組である3大プロジェクトとして推進している重要な分野でもあり、委員皆様からの率直な意見や非常に大事な指摘をいただき、それを報告書という形にまとめていただいたものと認識している。</p> <p>市としても、核心をつくような意見をいただいたが、非常に大事なことであるので、今後の改善に活かすべく、予算や事業の改善に結びつけていければと考えている。</p> <p>市の目指す将来のビジョンである「『このまちで良かった』みんな輝く 未来共創のまち とだ」を達成するためにも、今後も皆様と連携しながら、より良い市政となるように進めていきたい。</p>
委員	<p>今回、第5次総合振興計画で掲げた32施策のうち、2年間、外部評価委員の立場から意見をさせていただいたが、32施策に対して12施策にしか意見することができなかった。対象施策は多数決等で決定したこともあり、私自身が選びたかった施策が残されたところが少し心残りである。</p> <p>一方で、内部評価の初年度に対し外部評価を行えたことは、良いタイミングであった。フレッシュな課題にフレッシュな時期に意見を述べることができたのは良かった。計画期間が長いため、今後の改善に少しでも貢献できればと考えている。</p> <p>公募市民としての参加ということで、その意味では、まさに共創の仕事ができたと感じている。また、自治という基本理念の観点では、市民活動としては、大変高度な場に参画できた。ヒアリングでは、担当部局からすると、</p>

<p>委員</p>	<p>厳しいと感じるような意見も随分言わせていただいたため、困ってしまったかもしれないが、職員と直に接することができ、行政の裏側や大変さを市民として感じる事ができたことが収穫である。今後、PDCAを回していただき、改善活動に少しでも役立てていただければと思う。</p> <p>外部評価委員会の運営で、非常に印象に残っていることが2つある。</p> <p>1つは、昨年度の第8回外部評価委員会で、担当部局から答申書に対する行動計画が提示され、委員1人ひとりの意見に対し、細かく回答があったこと。厳しい意見もあったと思うが、意見それぞれに対するアクションが出てきたことは、非常に評価できることであると考えます。</p> <p>もう1つは、今年度の第1回外部評価委員会で外部評価委員会の方向性について事務局から説明があった。委員からの多様な意見や問題提起に対し、事務局が1つひとつ丁寧に対応し、可能なものは実施時期まで明記していた。これも非常に評価できることと感じた。事務局は自身の対応は言うに及ばず他の部署に交渉し、事前調査や質問への回答を得るなど、非常に苦勞も多いと思うが、事務局の方々が骨身を惜しまずに作業をしていただいたことに、感謝申し上げます。我々、委員にとっても、励みになった。</p> <p>第5次総合振興計画の進捗を外部評価という観点から見ると、各施策や事務事業に対して担当部局の皆さんが真摯に取り組んでいると感じたが、その中で3点気になることがあった。</p> <p>1つ目は、施策の基本的な方向性の理解や解釈について、疑問に感じるところがあった点である。施策の解釈は複数あっても良いと思うが、その解釈に至った過程の説明が欲しかった。2つ目は、計画期間10年の総合振興計画にもかかわらず、本当に10年を見据えた事業なのか、首をかしげる点があった。10年先を見据えて、「何年にどこまで」といった時間経過を勘案した計画を提示してほしかった。3つ目は、施策を構成する事務事業の数にばらつきがあったことである。極端な例で言うと、1つの施策に事務事業が20件あるものや3件しかないものがあった。さらに、他の施策の事務事業だが、本施策にも関連する事務事業、いわゆる再掲の事務事業の取扱いが明確になっていないのではないかと感じた。</p> <p>総合振興計画の策定時に、施策を構成する事務事業をどのように設定するかについては、非常に重要なことと考える。当初、施策担当部署が中心とな</p>
-----------	---

って事務事業を検討していくものと思っていたが、総合振興計画の策定時、基本目標と施策体系決定後に、次長級の会議で決定していたとのことである。行政上の手続きや時間的制約もあり、仕方ない部分もあるかもしれないが、計画の策定に関わった部門から事業を実施する部門への引継ぎ、PlanとDoの間の引継ぎが本当に上手くいっているのかどうか気になった。さきほどの問題点もそのような点に理由の一端があるのではないかと感じたところである。

最後に、ヒアリングを通して、若い職員が非常に歯切れの良い対応をされており、委員として見ていて清々しい気持ちになった。今後、総合振興計画の見直し作業などがあると思うが、そのような場面で積極的に若い職員を参加させ、活力や新鮮な視点を取り入れていただきたいと思った。若い職員も10年後には、中核になっていると思うので、そういった職員を総合振興計画に係る事務や活動に積極的に参加させるべきと感じた。

委員

今年度も無事に答申という大切な節目を迎えることができた。昨年度はオンライン方式での開催が多かったが、今年度は対面方式で開催できたことで、より熱い議論、そして活発な意見交換がなされたものと確信している。

私が感銘を受けたのは、対象となった部局職員の方々、そして事務局による的確な回答と丁寧な資料作成であり、非常に明快で理解しやすかった。

つたない私見を申し上げますと、戸田市は教育が全国的に有名だが、近い将来、観光も大きく発展しそうな予感がする。ポートコース、戸田公園、彩湖、戸田橋など、戸田市には観光地が多くあるので、戸田市の観光事業も伸ばしていきたい。

最後に、「まち、ひと、しごと」の3つの歯車がしっかり噛み合い、第5次総合振興計画が進行することで、戸田市がますます発展していくことを祈念する。

委員

2年に渡り、外部評価委員をさせていただいたことに感謝申し上げます。あまり細かいことを知らずに飛び込んでしまいましたが、戸田市の様々な事業に対し熱心に取り組み、市の発展のためにとても努力している市職員の姿を見て、ますます戸田市に対して愛着を持った。

私は、特に教育分野に関心があり、昨年度から始まった小学校の「ぱれっ

	<p>とルーム」にも携わらせていただいた。これまで教育の現場を見ながら、いろいろと経験した中でも、子ども達を救うという観点からも、とても良い取組だと感じている。そういった取組にも注力しつつ、戸田市の教育分野をさらに進めていただければと願っている。</p>
委員	<p>施策担当部局の皆様の協力のおかげで、本日は無事に答申できたことに礼申し上げます。</p> <p>私は、数年間、外部評価委員として活動したが、評価対象の分野がとても広く、学識経験者と言いながらも、思ったことをそのまま質問するような形になってしまった。そのような中でも市職員の方々は、とても丁寧な対応や説明をしていただいた。</p> <p>最後に、評価制度について、私の意見を述べさせていただくと、法定受託事務を実施している事務事業と市の裁量のある事務事業は、分けて評価した方が、委員として評価しやすいのではないかと、今年度に関しては特に感じた。</p>
委員	<p>今年度は、第5次総合振興計画1年目の実績を振り返り、今後の取組に活かすという局面での評価であった。評価の仕方としては、各部局から詳細なロジック・モデルシートを提出していただき、それを基に実績評価を振り返った。</p> <p>気になった点としては、ロジック・モデルシートで設定している目標と総合振興計画上の目標にズレが見受けられたことだ。計画は、技術や経済の変化により、目標が陳腐化していくことがあるので、目標を変えること自体は合理的であるが、実績評価1年度目の局面で、陳腐化が既に起きているのであれば、策定時に問題があったかもしれないし、目標を変えているのであれば、変わった理由を説明する必要がある。それを理解した上で、評価することだったと思うが、行政実務のニーズを反映して目標を変えたのか、別の理由によるものなのかという点について確認が難しかった。そのような点を共有する機会があれば良いと感じた。</p> <p>担当部署の仕事の目標は、ロジック・モデルシートの作成ではなく、サービスを提供するためではあるが、業務の状況を委員と共有した上でコミュニケーションを図っていくことが基本であり、その際に見受けられた目標のズ</p>

委員長	<p>レについては、評価をする上で課題であり、考えさせられる点であった。</p> <p>まずは、今年度も外部評価委員会に関わる皆様の協力に感謝申し上げます。特に、事務局の皆様については、非常に丁寧に資料作成からアテンドまでしていただいた。それから、委員の皆様にも非常に活発に議論していただき、本当に助けられた。</p> <p>印象に残ったことを2点申し上げます。</p> <p>1つ目は、外部評価委員会に政策の設計図であるロジック・モデルを導入して、それを基に施策の担当部局が施策概要をプレゼンしていただいた。以前は、施策概要の説明をするはずが、施策に紐づいている個々の事業の説明に終始することが多かった。今年度の6施策については、ロジック・モデルシートを使い、上手く説明していただいたので、分かりやすかった。これは、EBPMへの第1歩である。</p> <p>なかなか、「事業ありきの発想」から抜け出せないことがあるが、何を目的として事業をやっているのかや、事業はあくまでも手段であり事業を行うことが目的ではないことを認識する上では、ロジック・モデルが重要となる。</p> <p>外部評価の場では、ロジック・モデルが導入された。だが、もしかしたら、外部評価委員会用に付け焼刃でロジック・モデルを作り、プレゼンの練習をしているかもしれない。普段の業務の中で、ロジック・モデルシートがどのように使われているかは、分からない。戸田市は学校教育分野におけるEBPMの先進自治体であることは間違いないので、市長部局でも展開していただければというのが、私の思いである。</p> <p>2つ目に、具体的な例を挙げると、教育委員会事務局所管の施策4「世界で活躍できる人間の育成」があるが、ロジック・モデルシートを使い、非常に上手く説明をされた。たくさんの事業があり、ものすごく膨大なロジック・モデルシートになっていたが、上手く説明をされた。一方で、施策名称の「世界で活躍できる」とはということかについては尋ねたが、説明を聞いても「教育環境の充実」と変わらなかった。「世界で活躍できる」については、当時、総合振興計画を策定した時の職員が今ここにおりませんと、正直な回答をいただいた。そうであっても、人事異動の際に引継ぎがあるはず。人事異動の引継ぎでは、どの事業をどの課で行うか、あるいはどのように行うかについては、引き継がれてもその事業の目的や成果までは引き継がれて</p>
-----	--

	<p>いないことが往々にしてある。そのようなことがあったのかもしれない。重要な施策概念の部分であり、そこについては管理職の方々がしっかりと回答いただけたら、さらに良かった。</p> <p>最後に、施策を実現するためには複数の部局が連携していかないと、施策が目指す姿を実現することは難しい。他の委員からも発言があったように、総合振興計画を策定する過程において、施策が目指すゴールを実現するためにどのような連携が必要かを関係課と一緒に議論して初めて、それが自分達の実現すべき施策であるという認識を持つことができるのではないか。しかしながら、事業ごとに見て縦割りになってしまう傾向があり、それを計画策定後の進行管理や評価の場でも引きずってしまっているのではないか。</p>
市長	<p>委員の皆さんからいただいた話を通じて、次の課題や方向性が明確になったと感じている。日々の仕事に追われ、重要な施策を意識する余裕がない中でも、ゆとりを持ち意識できるようにしたい。特に所属長は、そのような時間があれば、ロジック・モデルの考え方を取り入れ、部署間連携や意見交換などを行う時間に充てることができる。</p> <p>委員長から話があったように、ロジック・モデルを自分達で作ることがトレーニングにもなり、次期総合振興計画の策定時にも役に立つと考える。本来であれば、常にそういった点を意識しなければならないが、実際にはそこまで、できていないところもあると改めて感じた。</p> <p>また、法定受託事務や自治事務などの切り分けについても重要であると考えている。やらなければならない事業についても、もちろん評価しなければならないし、自主的に行う事務の目的などを見極めることが大切である。</p> <p>課題はまだまだ多いが、皆様の意見をしっかりと受け止め、また、若い職員が頑張っていると評価していただいたことも励みになったのではないかと思う。職員と一緒に信頼に足る行政を目指して、頑張っていきたい。</p>
委員	<p>広い意味で医療に関連する施策の領域まで踏み込んだ自殺対策やワクチンなどについて評価することが難しかった。医学的な知識や、自殺対策では個人の人権擁護だけでなく、医学的な観点から考えることもあった。また、今後の方向性を討議する際に、生活者側の自己負担分、裏返せば、公金をどれだけ投入するかという問題が難しかった。今後の方向性について議論する</p>

	<p>際、例えばワクチンの費用負担を減らす方向にすべきだと議論するとなれば、社会保険や公金から投入することになるので、それは市が投入する資源を増やすことになる。そのような質問については、曖昧な回答にならざるを得なかったのだろうと、今、振り返ると思う。</p> <p>また、近隣市や県からの補助の問題や東京都との比較など考慮に入れると、より複雑になり難しかった。自己負担のあり方や公金からの資源増加の議論については、今年度では特に悩ましい問題であった。</p>
市長	<p>最近、東京都が带状疱疹のワクチン助成を行っており、さらに、各区が追加で助成を行っている。実施する場合にはワクチンの定期接種化や補償に関する問題など考慮すべき事項が多くある。また、東京都が実施しているにも関わらず戸田市が助成できない理由としては、圧倒的な財政力の差も挙げられる。近隣市と比較しながら、様々な努力をしても、東京都に隣接する戸田市は、埼玉県だけでなく東京都と比較されることが多い。そういった点からも公金投入の判断が難しいと感じることがある。</p>
委員長	<p>特に、給付事業などは同調圧力がかかりやすい面がある。</p>
市長	<p>あの自治体では実施しているのに戸田市では実施しないのかという意見や市としてどこまで公金を投入すべきかといった判断だけでなく、評価をする上でも難しいと感じている。</p>
委員長	<p>本来は、効果がどうあるべきか、有効であるかという観点が重要であるが、例えば、带状疱疹ワクチンであれば、医学的なエビデンスはどうかなどの議論が置き去りのまま、別の観点からの圧力がかかりやすい。</p>
市長	<p>まさにその結果、実施せざるを得なくなってくることもある。また、子育て支援やワクチン接種など、国主導で制度が急に変わることもあり、P D C Aを回しにくく、苦慮している部分もある。</p>
委員	<p>P D C AのP l a nやD oについては、担当部署はじめ皆さん、尽力されているが、P l a nからD oへのつなぎの部分について、改善の余地がある</p>

と感じた。先ほど市長が話されたように、P D C Aを回す要の管理職などに時間的な余裕があるか、計画から実行に上手く移せているかが一番の課題と考える。別の見方をすれば、このつなぎ部分が上手く回るように管理していくことが管理職や各種委員会の役割なのかもしれない。全体がうまく繋がれば、さらに良くなると思っている。職員の方々は一生懸命に取り組まれているが、計画時の思いが実行する際に伝わっていないと、無駄な労力になってしまうおそれがある。そうならないために、計画した内容や目標について共有認識を持つことが必要になってくるが、この観点から見ると、市長の号令というのは、とても重要なことだと思う。

3 閉 会